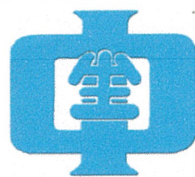


長 坂



平戸市立生月中学校
学校だより第18号
(令和元年 9月)

文責 西澤 庄藏

体育大会に、多くのご支援をいただき、ありがとうございました。



秋晴れの中、09/15(日)第53回体育大会を開催しました。
当日は、多くの保護者、そのご家族、地域の方々に足を運んでいただき、盛大に実施することができました。



大会を控え、PTA主催除草作業を企画していただきましたが、2度とも大雨のため、中止となり、運動場周辺の環境整備にも苦労を要しました。ただ、直前に、PTA有志の方々の複数回にわたる草刈り協力があり、整った環境で開催できる運びになりました。多くの方々の温情に支えられていることを実感しました。テント設営の際の見渡す限りの整った状況に、学校行事を無事に迎えられる喜びと安堵を感じたひとときで、今でも鮮明に覚えています。ありがとうございました。

大会そのものは、生徒一人一人の頑張り先生たちの熱い思い、保護者や地域の方々の温かいまなざしに見守られ、気迫あふれる競技が展開されました。それぞれが得意不得意はあるものの、最後まであきらめずに、走ったり、演技したりの連続でした。中でも、全員が出場する100m走での一生懸命な態度は誰もを魅了するものでした。ゴールシーンで差がついた場面であっても、ゴールする瞬間まで力を抜かなかった選手に、「頑張れ」という力強い声援と健闘を称える大きな拍手が送られていました。必死になって駆け抜ける選手が大変格好良く映ったひとときでした。

また、運動場の一角に、スローガン「翔舞(しょうぶ)」を記したパネルを掲示して大会を印象づけました。ここにも生徒の活躍を見た思いです。

秀逸だと思ったものが、競技の最初と最後に行う大声でのあいさつで、その立ち居振る舞いは理屈抜きに素晴らしく、生徒一人一人の表情が自信に満ちあふれ、本校生徒である誇りたるものを感じ、大変頼もしく映りました。まさに、不快感0(ゼロ)で(競技者はもちろん)参観者も自然と笑顔に満ちあふれるものでした。

開会式での生徒会長、閉会式での実行委員長、それぞれの原稿なしで堂々としたあいさつも、今大会での着実な成長を感じた1コマでした。やり遂げたことを自信にして、次なるステージにつなげてほしいと思います。

この体育大会は「みんな」で一つのことを創るかけがえのない行事でした。たった1日で終わる行事であっても、その計画や準備に莫大な時間を費やすことを、生徒一人一人が実感したと思います。私も含めて「みんな」が、これまでの苦労が達成感にかわったものと思います。

結びに、事前の草刈りや当日の駐車場係に携わっていただいたPTA保体整備委員の皆様、綱引きにご参加いただいた皆様、ほかにも、数多くの場面でご支援いただいた保護者・地域の皆様に、改めて感謝申し上げます。

